

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名張市立薦原小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒518-0606
三重県名張市薦生1595番地

E-mail g01_e-komo@nabari-mie.ed.jp

Website http://www-nabari-mie.ed.jp/e-komo/

幼児児童生徒数 男子 57名 女子 46名 合計 103名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校の特色である「人や自然とのつながりを大切に学習」をESDの視点から捉え、授業化することで、子どもたちがより意欲的に学習に取り組み、表現豊かに伝え合い高まり合う子どもの育成をめざした授業の創造につながると考えた。そこで、ESDカレンダーを作成し、「ESDの視点を取り入れた学習」を総合的な学習の時間・生活科を中心に各教科、道徳、特別活動などの中から関連づけて1年～6年まで行っている。

① 薦原の自然や人から学ぼう(3年生)

地域活動の拠点である、市民センターは本校と同じ敷地内において隣接している。市民センターでは、地域循環のバスの運行や地域の見守り活動等様々な活動を行っている。その見守り活動の一環として月に1回「コモちゃん」という配食サービスを行っている。3年生では、市民センターを訪問して働いている方々から聞き取りを行った。また、配食サービスの設立時から関わっている、スタッフの方を講師に、配食サービスに携わる思いや苦勞をお話しいただき、地域の活動を身近に感じる事ができた。

② ギフチョウに係わる活動(4年生)

市の天然記念物のギフチョウの観察を、「伊賀ふるさとギフチョウネットワーク」の協力を得て数年前から行っている。3年生の3月に、ギフチョウの生態や特徴について

て教えてもらい、その学習を受け、4年生の4月に、実際に観察に出かけている。アゲハチョウに比べ、体長は少し小さめで、太陽の日を体に浴び、早春の時期に活動を始め、「春の女神」とも呼ばれている。生息地（保護指定区）は学校より歩いて約15分のところにある。

③ 学校林の探険活動（5年生）

森の先生から広葉樹と針葉樹の違いや森林の役割、間伐の大切さ等を教えていただいた後、地域の方々（薦原市民センター）の間伐を見学し、丸太切りも体験した。そして、地域にある製材所を訪ね、大きな木が柱や板になって行く工程を見学した。実際の材木を見ながら、加工された木材がどのように利用されているかも教えてもらった。また、製材した間伐材を使って、講師の木工作家に安全な糸鋸の使い方を教えてもらった後、一人ひとりがアイデアを生かした「世界に一つだけの鍋敷き」を制作した。

④ 里山の野生動物との共存を考える活動（6年生）

毎日の通学で見る地域の田んぼや森の入口に少しずつフェンスが張られ、いつの間にか地域全体の囲むようになってきていることを日常の風景と見ていたが、里山の野生生物と私たちの暮らしということをテーマに学習した。地域に住み、猟友会の活動の中心になっている方の体験や地域に出没する鹿や猪等の野生生物がなぜ増えているのかの聞き取りを行った。また、市の農林資源室の担当の方に、名張市の野生生物との共存の取組について教えていただいた。



① 薦原の自然や人から学ぼう（3年生）



② ギフチョウに係わる活動（4年生）



③ 学校林の探険活動（5年生）



④ 里山の野生動物との共存を考える活動（6年生）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応



ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校区は豊かな自然に囲まれ、ギフチョウの観察や米作り体験などの自然を生かした学習が以前より行われている。また、地域の方々の学校への協力も多く、前述の自然に関する活動だけでなく様々な場面で地域の方々をゲストティーチャーとして招いている。ESDの視点を取り入れた人や自然とのつながりを大切にした学習を通して、「人や自然」とのかかわりの中で生き、支えられていることに気づくことができ、本校の重点目標である「自分も友だちも大切に作る人になる」の達成に結びつくと考えられる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

身の回りの身近な自然との関わりを軸にし、ESDの視点を取り入れた活動を行うために、まず、「ESDカレンダー」を作成し、各学年で年間を通して授業を中心に取組んでいる。限られた授業時数であるため、学年での重点単元を設定して、授業者が変わっても継続的に統一した取組みができるようにしている。また、授業では、児童のつながりを高めるため、「話す」「聴く」「書く」活動を取り入れた授業展開を行い、伝え合い高め合うプロセスを重要視していることを学校全体で意識している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

「伝えあう力の育成(ESDの授業を通して)評価」の児童アンケートを年間2回(6月、11月)に行い、児童の変容を見た。○学習をして新しい発見があったと感じている子は昨年度に引き続き多い。●昨年度に比べると、「楽しく学べた」「書くことができた」「伝えることができた」「聴くことができた」「考えをもつ」「やってみたいこと」の数値が下がった。ESDの学習を進めるにあたり根幹となる項目なので、レベルアップを図りたい。

(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

7月25日に、豊田市福祉センターで開催された「学校の森 子どもサミット」では、6年生が学校林で学んだ地域の環境を大切に守っていくことを全国から集まった小学校に向け発表し、伝える力の醸成につながった。

12月3日に、みえこどもの城で開催された「みえ子ども 森の学び サミット」では、5年生が学校林の探検活動で学んだことを、県内5校の小中高等学校や一般参加者に向け発表した。南北に長い県内の西端の森林環境を学ぶ取組として広げることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

11月12日に、市民センターで行われた地域イベント「コモコモふれあい祭り」では、各学年のESDの取組で学んだことを地域や保護者に発信をして、本校の取組に対する理解を広げることができた。

3月17日に、三重大学で行われた「三重大学ユネスコスクール研修会」の当日配布される冊子に、本校の取組内容の資料提供をした。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

8月18日に、本校を会場に、市内の隣接するユネスコスクールと「ESDの視点を取り入れた学習を通して、自ら伝え合い学び合う授業の創造」をテーマに実践交流会を開催した。その中では、次期指導要領に対応して、主体的で対話的な活動を通して深い学びにつなげていく学習には、ESDを視点にした取組を進めていくことが重要であること、そのためには、カリキュラムや授業のマネジメントを今以上にしっかりやっつけていかなくてはならないことの共通理解が図られた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ ESD の視点で討論ができるテーマを与え、グループの中で意見を出し合わせて考えを深めていく活動に低学年から取り組むことができるようになってきた。
- ・ 「話す」「聴く」活動のマニュアル表を意識して、発表の仕方を低学年から定着させることができたことにより、学習規律を整えることができた。
- ・ 授業や児童会活動、学校行事等で「伝える力」を養う場を常に意識することで、児童の中にも伝える力がついたと実感できる子も増えてきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

全学年でESDの視点を授業に取り組み、子どもたちの「伝え合う力」を高め、人や自然とのつながりを大切にしながら、共に学び合って行動していく子どもたちを育てていく。そして、地域に貢献する活動へとつながる学習として発展していきたい。そこで次年度も、次の活動を重点に取り組んでいく予定である。

- 自分たちの身近な自然や社会との関わりを軸にした ESD の視点を取り入れた活動の実践
 - ・ ESD カレンダー（2018 年度版）の作成
 - ・ 地域教材の更新
 - ・ 重点単元の設定
- ESD の視点を取り入れた「伝え合う学習」の展開
 - ・ 「話す」「聴く」「書く」活動を取り入れた ESD の授業展開
 - ・ 伝え合い高め合うプロセスを取り入れた ESD の授業展開